

2001年度(平成13年度)

## 第4回川崎市外国人市民代表者会議

### 会議経過



#### ● 第1日(2002年1月20日)午後2時～5時 国際交流センター

##### 1. 事務局説明

##### 2. 議事(全体会)

###### ■ オープン会議実行委員会の報告(中村ノーマン友夫実行委員長)

・アンケート結果のまとめ

###### ■ 市民祭り会議実行委員会の説明・報告(唐徹実行委員長)

・アンケート結果のまとめと会計報告

###### ■ ニュースレター編集委員会の報告(殷珊珊編集委員長)

・NO.15の編集内容について

##### 3. 議事(部会)

###### < 教育部会 >

###### ■ 学校における外国人の保護者と子どもへの支援

・大人には各区に日本語教室があり、日本語を教えるボランティアも大勢いるが、子どもに教えるところはない。学校についていけない子どもを支援する場所がほしい。

・学校のことは、まず学校で対処することが基本。学校が救えない登校拒否の子どもへの支援は次元が違う問題。

・学校の先生は忙しくて、「大丈夫、大丈夫」と言うが、実際に子どもはだんだん学校に行きたがらなくなっている。手遅れになる前に出来る人が手伝えないか。

・差別やいじめなどのストレスもあると思う。心のケアのためのカウンセラーの派遣も考えたらどうか。

・教員研修では、外国籍の子どもや保護者を受け持った時に担任として何をすべきかなど、具体的な研修を行ってほしい。各学校でも外国人教師を積極的に活用すれば、日本人の子が外国人の子を差別することもなくなり、外国人の子どもも相談しやすくなると思う。

・私たち自身がPTAで外国人の子育てを紹介するなど行動したらどうか。

・他のクラスや学校にいる外国人保護者とも連絡をとって、お互いに話したり相談したりできるような支援があるとよい。

・今後の課題として、調査審議を充実させるために、もっと現場の声を聞くなど調査が必要。

・学校に、同じ言葉を話すソーシャルワーカーがいれば、親も悩みを気楽に話せると思う。

・要求するだけでなく、「教育の基本は家庭にある」という考え方を背景に入れる必要がある。子どもの教育と一緒に担うという意味で、保護者と教師の密接なコミュニケーションが必要になる。外国人教師がいれば問題が解決するわけではないので、外国人教師にも国際理解教育は必要。外国人ソーシャルワーカーは、外国人市民を積極的に責任ある場所で活用するという点でよい考えだと思う。

・一般的な相談窓口では、毎回違う人で誰に当たるかわからない。継続して自分のことをわかってくれる人がいるとよい。

・(事務局)外国人のためにということではないが、現在、各中学校には心の相談員がいる。カウンセラーを置いている学校も多い。

・外国人のソーシャルワーカーなら、どこの国の人でも、言葉や文化の壁があることをわかってくれると思う。

・保護者への支援でのIT活用は、言語のサポートだけでなく、きめ細かなコミュニケーションを支援する手段として広範囲

に活用できる。

・教育制度だけではなく、子どもが受ける教育の中身を保護者が理解する支援が必要。

#### < 地域生活部会 >

##### ■ 地域でのコミュニケーション

・既にいろいろな資料が出ていても知られていない。情報がすぐ取れるようなシステムの構築を提言したい。

・必要な情報をビデオに入れて、市役所や区役所のビデオコーナーで見ることができたらよい。

・駅に情報を蓄積して、案内係もいるとよい。市役所や区役所に通訳を置けば話ができる。

・最初に日本に来たときのことより、病気の時や、子どもの母子手帳や予防接種、学校などについての情報が必要な人に届くようにすることを考えるべきではないか。

・来日したばかりの人、長く住んでいる人など、それぞれに必要な情報を考えなければならない。

・インターネットや多言語の電話で、知りたい情報の番号を押すとテープでどこに情報があるか聞けるようにすれば便利かもしれない。

・住宅基本条例ができて、条例を知らなければ泣き寝入りになってしまう。

・ビザの相談や病院への付き添いがビジネスになっていて、高額の料金をとっている。

・3歳児検診や40歳のがん検査など節目検診の通知は、外国人市民にも送られている。住宅や学校についても日本人市民と同じような情報を外国人市民に送ってほしい。

・国際結婚では外国人の親が住民票に載らないので、片親だと心配して訪ねてくる人がいる。

・住民票に載せるかどうかは制度的な問題だが、外国人も住民として扱われるべき。

・市が就学案内を送ったら「民族学校に入学する子どもが減る」と民族団体から送付中止の要望が出た時代もあった。望まない情報が与えられる場合もあるので、住民として受け取る権利がある情報と分けて考えた方がよい。

・どの情報を出すかは、人権を守るためにどうするかが基本であって、主観や思想を入れてはいけない。

・市は法律や条例に基づいて仕事をしているので、法律を変えなければならないこともある。私たちとしては、こういうことに努力してもらいたいという形で提言をまとめるのがよい。

#### 4. 議事(全体会)

##### ■ 各部会の報告と各種連絡

#### ● 第2日(2002年2月3日)午後2時～5時 国際交流センター

##### 1. 事務局説明

##### 2. 議事(全体会)

##### ■ ニュースレター編集委員会の報告(殷珊瑚編集委員長)

・NO.15の編集内容案について報告

##### ■ 2001年度年次報告

・年次報告書の構成について説明

・事務局が、これまでの提言の進捗状況について説明

##### 3. 議事(部会)

#### < 教育部会 >

##### ■ 2001年度提言案

・基本的にはこの提言案でよい。

・日本語指導等協力者は週2回しかいないので、それ以外の時間は担任の先生が対応することになるので、先生も国際理解教育の研修を受けて、少しでも子どもの立場を考えたケアをしてもらいたい。

・「外国人教師の活用」も提言に入れてほしい。

・子どもがどうなるかは、教職員の意識や資質に大きく左右される。職員の人たちが子どもたちのために、我々が出した提言の一部でも活用してくれたらよいと思う。

・先生と子どものコミュニケーションが十分ではないと感じている。提言が実現して、少しずつ直していければよいと思う。

・IT活用は多言語による情報発信に限らず、いろいろな可能性がある。支援を充実させるために、学校におけるIT政策を広めるという文を入れたい。

・「外国人教職員などを積極的に活用し」と入れることについては賛成。 異議なし

・実際の問題を見るために、もっと現場へ行くべきだったと感じている。日本語指導等協力者は週2回しかいないので、ソーシャルワーカーがいれば、問題解決の為に役立つのではないが。

・「理由・背景」の「外国人教職員など」の前に「国際的な視点に立って」という修飾語を入れたらどうか。 異議なし

## < 地域生活部会 >

### ■ 2001年度提言案

・情報センターを作っても、それがどこにあるのかを知らなければ今と状況は変わらない。また、センターを作るのには相当なお金がかかり現実には難しいので、情報システムの構築を訴えた方がよい。

・最近、成田では入管を通った時に、外国人登録などの情報を英語で書いた紙をパスポートに入れてくれる。これは英語だけなので、多言語になれば助かると思う。

・外国語による広報の充実等に関して、1996・97年度提言が出てから、どういう改善があったのか。また、今後やらねばならない環境整備とは何か。

・(事務局)外国人市民情報コーナーが設置され、「外国人市民の広報のあり方に関する考え方」という基本方針を策定した。しかし、転入間もない人にとって必要な情報の広報はまだ十分ではない。

・既に提言が出され、市役所でいろいろな検討がされているにも拘わらず、まだ不十分な状態にあることが問題。もっと改善できるような方向付けを提言に盛り込むべき。

・「理由・背景」に、具体的にやってほしいことを付け加えたらどうか。

・提言文に具体的なことを入れることは出来ないのか。

・いけないはないが、逆に狭い意味になってしまう。

・提言文は「環境をつくる」でよい。入国審査のときの情報提供を「多言語で」と入れればよいのではないかと。 拳手全員

・情報センターが必要だという意見も多かったので、「センターの設置などを含め、情報システムを構築する」としたらどうか。

・センターを作っても利用頻度が少ないのではないかと心配がある。今ある区役所の情報コーナーも知られていないため、いつも閑散としていて、資料の管理・補充もなされていない。ハードではなくソフトを考えるべき。

・今ある窓口は平日の6時までしか開いていないので、行きたくても行けないという問題がある。言語の問題だけでなく、使いやすいシステムにする必要がある。

・情報センターができれば全ての問題が解決する訳ではない。センターにこだわらず、外国人が生活しやすくなれば、日本人も生活しやすくなるという全体の大きな視点で考えるべき。

・「情報センター」という言葉がなくなると、人のスキんシップの意味がなくなるのが心配。「システム」と「センター」と両方入れたい。

・中原区役所には情報がたくさんあり、聞けば新設に教えてくれる。「システム」だけでよい。

・「センター」を消して、「システムの構築」を入れる。 拳手多数

・「必要な情報を得ることは...重要なことです」は大事なことなので、「提供する情報は文字によるものだけでなく...」の前に置いた方がよい。 異議なし

・「必要な情報は様々です」の後に、「川崎市や神奈川県では、現在、外国人にとって必要なさまざまな情報や資料が多言語で作成されていますが、それらの情報や資料が有効に利用されていません。様々な情報や資料を一元化することが重

要で、外国人がわかりやすい、利用しやすい情報システムを構築し、必要に応じて情報を得、多言語で相談できるような情報センターが求められます』と続けたらどうか。 異議なし

・「理由・背景」の最後に『日本人市民にとっても、日常困った時に、わかりやすい、利用しやすい同様な情報システムがあることは価値があると思います』という文を入れたらどうか。「今回は外国人が困る情報が強調されていたので必要ない。」という意見があり、提案を撤回。

#### 4. 議事(全体会)

##### ■ 各部会の報告と各種連絡

